

県医師会の動き

副会長 吉本 正博

毎年 8 月 13 日には関門海峡花火大会が開催されます。第 33 回の開催となる今年は、下関と門司が共同開催するようになって 30 回目の記念の大会でもありました。関門海峡を挟んで下関側と門司側から、1 万 5 千発の花火が夏の夜空を彩りました。私は主催者である下関 21 世紀協会の会員でもあり、毎年ボランティアで救護の医師として出務しています。今年は天候に恵まれ気温も高く、熱中症の多発が懸念されましたが、幸いなことに熱中症の症状を訴える人はいませんでした。しかし、花火大会終了間際に泥酔で転倒し、顔面に外傷を来した方が担ぎ込まれました。生ビールを 6 杯飲んだとのこと。花火大会終盤では連続で打ち上げが行われ、1 尺半の超特大花火も打ち上げられます。テントの外では盛大に花火の開く音と歓声が聞こえていましたが、残念ながらそれを楽しむことはできませんでした。そしてこの日、甲子園初出場の下関国際高校が香川県の三本松高校に 4-9 で敗れています。私の夏、そして下関の夏が終わりました。

7 月 6 日 (木)、**社保・国保審査委員連絡委員会**が開催され、「サムスカ錠の投与期間について」、「PPI と H2 ブロッカーの併用について」、「糖尿病治療薬の併用について」、「IRI の取扱いについて」、「リハビリテーションの取扱いについて」が協議されました。いずれも以前協議され、申し合わせ事項として取りまとめられています。状況の変化等もあり再度、取扱いについての協議が行われました。詳細については本号掲載の報告記事をご参照ください。政府の規制改革推進会議はコンピューターによるレセプト審査のさらなる推進と、支払基金の支部集約化・統合化、審査基準の

統一化を提言しています。しかし、地域ごとに医療資源 (人や施設等) も異なりますし、患者の年齢構成や疾病構造、医療施設へのアクセス等もさまざまです。これら地域特性の違いを考慮してきた歴史を無視して、効率のみを考えての統一化はいかがかと思えます。コンピューターによるレセプト審査であれば、各県独自の取扱いをプログラミングに取り入れることは簡単にできると思います。この委員会と社保・国保審査委員合同協議会でとりまとめていた山口県独自の取扱い (いわゆる山口県ルール) は、山口県医師会の誇るべき伝統・業績であり、今後も継続して行くべきものであると考えています。

7 月 6 日 (木) に開催された**郡市医師会地域包括ケア担当理事会**と、7 月 13 日 (木) に開催された**郡市医師会地域医療担当理事協議会**で、平成 29 年と 30 年に県医師会が実施する地域包括ケア推進事業についての説明が行われました。この事業は、郡市医師会が実施する地域包括ケアに関する事業に対して 80 万円を上限として助成を行うものであります。ぜひ活用いただきたいと思えます。

7 月 20 日 (木)、**第 7 次保健医療計画策定のための「精神疾患」・「心筋梗塞等の心血管疾患」ワーキンググループ第 1 回会合**が開催されました。第 7 次保健医療計画では引き続き現状の 5 疾病・5 事業及び在宅医療について、重点的に取り組みを推進することとなっていますが、「急性心筋梗塞」が「心筋梗塞等の心血管疾患」となり、範囲が拡大されたこと、また、14 の精神疾患等の患者の地域移行・地域定着の推進に向けての検

討を行う必要から、この 2 疾患についてはワーキンググループを立ち上げ検討することとしました。今回がその第 1 回目の会合で、10 月の素案作成に向け、今後も会合を重ねる予定になっています。

山口県医師国民健康保険組合の平成 29 年度第 1 回組合会が 7 月 20 日（木）に開催されました。平成 28 年度の事業報告と歳入歳出決算が主な議題でした。被保険者数の減少による保険収入の減、国庫補助率の見直しによる補助金収入の減（約 2,200 万円）など財源確保が厳しい状況の中、歳出の大きな割合を占める療養給付費が前年度より減少したこと等により、何とか単年度収支黒字を達成することができました。しかしながら、高額医薬品等による医療費高騰の可能性、国庫補助率の引き下げ（平成 32 年まで毎年 3.8%の減額）の影響を考慮しますと、組合財政は大変厳しく、今後は規模の拡大を図るために、中国四国ブロックあるいは全国的な組合への統合・合併を模索する必要があるように思われます。

7 月 29 日（土）に広島市のリーガロイヤルホテル広島で開催された**中国四国医師国民健康保険組合連絡協議会**でも、鳥取県から「医師国保組合の将来について」、島根県から「国庫補助金の段階的削減への対応について」、広島県から「国庫補助金の削減等に伴う平成 29 年度予算（編成内容）について」の議題が提出され、協議が行われました。多くの県で保険料の引き上げが行われたようです。また、愛媛県のように被保険者を医師組合員とその家族のみとし、前期高齢者納付金の負担のない県もあります。しかしながら将来的にはやはり、ブロックでの統合、あるいは全医連や日医が主体となった全国的な組織への統合が必要との意見が大多数を占めていました。

7 月 26 日（水）に県庁で開催された**山口県男女共同参画推進連携会議**に今村孝子 常任理事が出席し、各団体の活動報告として、山口県医師会の取組みを紹介しています。

本年度第 2 回目の**有床診療所部会役員会**が 7 月 27 日（木）に開催されました。来年開催される第 31 回全国有床診療所連絡協議会総会「山口大会」の講演、シンポジウム等についての協議が行われました。講演としては日医会長、厚労省保険局医療課のほか、民間の研究所であるヘルスケア経営研究所に「30 年度医療・介護報酬改定の解説・対応」について講演をお願いすることとなりました。

7 月 30 日（日）に日本医師会大講堂で、9 時 55 分から 17 時 30 分まで、50 分の昼食休憩を挟んで、4 コマの 60 分講義と 5 コマの 30 分講義からなる「**地域包括診療加算・地域包括診療料に係るかかりつけ医研修会**」が開催されました。テレビ会議システムで全国中継され、山口県医師会でも 75 名の参加者（受講修了者は 74 名）がありました。全国では 6,500 名の申し込みがあったそうです。非常に良くまとまった講演内容で、充実したテキストも用意され、このような研修会に無料で参加できるのは日本医師会会員のメリットの一つであると痛感しました。

8 月 2 日（水）には日本医師会館で**都道府県医師会生活習慣病（糖尿病・COPD 等）担当理事連絡協議会**が開催され、藤本俊文 常任理事が出席しています。協議会冒頭の会長挨拶の中で、横倉日医会長は受動喫煙防止の署名が 250 万人を超えたことに感謝の言葉を述べています。協議会では COPD 対策推進の現状と課題、糖尿病重症化予防等に関する対策の現状と課題、特定健診・保健指導第 3 期見直しについての説明と討議が行われたとのこと。また、**社会保険診療報酬検討委員会**もこの日に開催され、萬 忠雄 常任理事が中国四国ブロック代表の委員として参加しています。委員会では平成 30 年度の次期診療報酬改定に関する要望書が取りまとめられ、8 月末に横倉日医会長宛に提出されることが決定されたとのこと。

8 月 5 日（土）と 6 日（日）の 2 日間にわたり、日本医師会館で開催された**平成 29 年度死亡時画**

像診断(Ai)研修会に中村 洋 理事が出席しました。この研修会は今回で3回目で、中村理事によると、小児の場合にはCTよりもMRIを用いた方が簡便であること、また、造影剤を使った死亡時画像診断の例が紹介され、今後この方法が主流となる可能性があるとのことでした。

今回はバロック期のフランスの作曲家ジャン＝フィリップ・ラモー（1683－1764）が作曲した歌劇「優雅なインドの国々」のDVDを紹介したいと思います。「愛が全ての国を支配する」という理念をエキゾチックに描きあげたラモーの大ヒット作で、ウィリアム・クリスティとレザール・フロリサンにより、パリのガルニエ宮との共同プロジェクトとして上演された舞台です。“インドの国々”となっていますが、第1幕の舞台はトルコ、第2幕はペルー、第3幕はペルシャ、第4幕はアメリカで、インドは出てきません。「インド」とは単にヨーロッパの外の見知らぬ国のことを意味しているようです。色彩豊かな舞台と衣装に、合間合間にコンテンポラリー・スタイルのバ

レエが挿入され、オペラ・バレエとも言われる、とても楽しい舞台となっています。このDVDはラモー作曲の歌劇「レ・ボレアド」、「カストールとポリュックス」、「レ・パラダン」、「ゾロアストル」等が収録された11枚組のボックス・セットで手に入れることができます。このうち「カストールとポリュックス」と「ゾロアストル」（クリストフルセ指揮）以外はクリスティの指揮です。

フランスのバロック・オペラは、雅やかな宮廷を中心に展開しました。豪華な宮殿を飾った室内装飾のように、音楽にも種々さまざまな、凝った装飾が施されています。ブフォン論争の影響で、上演機会のほとんど無かったリュリやシャルパンティエ、ラモーのバロック・オペラを、クリスティと、彼が1979年に結成した古楽アンサンブルのレザール・フロリサンが積極的に取り上げ、今バロック・オペラはブームをといって良い状況となっています。

死体検案数掲載について

山口県警察管内発生 of 死体検案数								
	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Jul-17	26	95	0	1	7	0	13	142

死体検案数と死亡種別（平成 29 年 7 月分）

